

2020 連続公開講演会

「信仰と理性——コロナ禍のなかで」開催趣旨

東洋哲学研究所創立者・池田大作先生は、2020年から2030年へと向かう10年を「人類にとって重大な分岐点となる10年」と定義された。言うまでもなく、21世紀初頭から現在にかけて、気候変動やテロ・紛争、生命倫理の問題などが、前世紀とは異なる現れ方で次々と起きている。この2020年には、人類が予想しえなかった形で、新型コロナウイルスが猛威を奮い、グローバルな感染拡大が起これ、人々の往来と身体的接触が制限された。そして、亡くなった感染者を満足に看取り、弔うことすらできないという危機的な状況が続いている。巷間では「ウィズコロナ」「アフターコロナ」と言ったフレーズが聞かれるようになったが、それは感染症対策を踏まえた新たな日常を構築すべき点に重点が置かれたもので、この危機を前に人類がどのように幸福を確立し、連帯を築いていくのかという人間としての生き方への論究にまで至っていない。

東洋哲学研究所では、コロナというウイルスの挑戦に人類が応戦しゆくために、池田先生が1973年に発表された「スコラ哲学と現代文明」講演で論じた「信仰と理性」をテーマに、連続公開講演会を企画する。人類の理性的な試みである医療行為やワクチン開発、政治的な取り組みと、生死を見つめる信仰が、矛盾を超えて統合され、新しい人類の指標となりゆく哲学の構築が今こそ求められている。研究所が長年に渡って進めてきた研究活動は、池田先生が掲げられてきた学問と理性を統合した「新しい哲学」を発信することにある。本講演を契機として、21世紀から22世紀へと生きる人類のための新しい哲学、真の宗教とは何かを探る試みの場としていきたい。

2020年の連続公開講演会は、10月～12月にオンラインで全4回実施する。

- 第1回 竹内 啓二 麗澤大学名誉教授（専門・近代インド思想、死生学）
- 第2回 佐藤 弘夫 東洋哲学研究所委嘱研究員、東北大学教授（専門・日本思想史）
- 第3回 市川 裕 東京大学名誉教授（専門・宗教史学、ユダヤ教）
- 第4回 岡嶋 裕史 中央大学教授、学部長補佐（専門・情報ネットワーク、情報セキュリティ）